

親鸞聖人御誕生850年

立教開宗800年

慶讃法要

教区の慶讃法要始まる

本山で来年3月29日から5月21日にかけて5期30日間営まれる親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要に先立ち、北豊教区で10月2、3日、慶讃法要が営まれた。教区で慶讃法要が営まれるのは初めて。同3日には山陰教区でも営まれ、本山の法要に向けて機運を高めた。今年はこの後、新潟、長崎、佐賀の3教区でも慶讃法要が予定されている。（8面に関連記事）

先頭切って北豊教区で

北豊教区の親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要が10月2日、北九州市門司区の鎮西別院本堂で営まれ、教区内の僧侶、門信徒ら650人が参加した。法要に先立ち、中村和宣法要推進委員長が

「新型コロナウイルスの影響でいろいろと模索したが、人数を制限した形で開催を決め、半年前に実行委員会を立ち上げた。浄土真宗の立教開宗から800年の間、多くの方がお念仏をよろこび、それが私たちに

伝わってきた。このお念仏のご縁が深まる法要になることを願う」と挨拶した。法要は雅楽の演奏で始まり、慶讃法要のために新たに制定された「新制御本典作法」をつとめた。参拝者はマスクを着けて一緒に

唱えた。法話は慶讃法要特命布教講師の田中信勝さんが立教開宗と「浄土真宗のみ教え」について話した。協賛行事も開催。特別ゲストの狂言和泉流宗家の和泉元彌さんと同教区勤式振興協議会が共演し狂言と雅

楽を披露（写真）。「迦陵頻伽」の演奏に合わせて、和泉さんが舞を見せ、会場からは大きな拍手が起こった。和泉さんはその後、初めての人にもわかるように狂言を解説。「室町時代の庶民の日常生活の中のエピソード」を題材にしている。狂言には、こういう人は昔からいたんだと、共感して楽しめる素朴な笑いが描かれている」と話し、演目「秋大名」を演じた。



閉会式で吉川孝介教務所長が挨拶し、慶讃法要の愛唱歌「みんな花になれ」を唱和した。参拝した福岡県豊前市の浄福寺仏教会長の依田昭世さん(80)は「親鸞聖人のご誕生と、今の私とのつながりを感じた」と感動の思いを話していた。翌3日には鎮西別院の慶讃法要が営まれた。